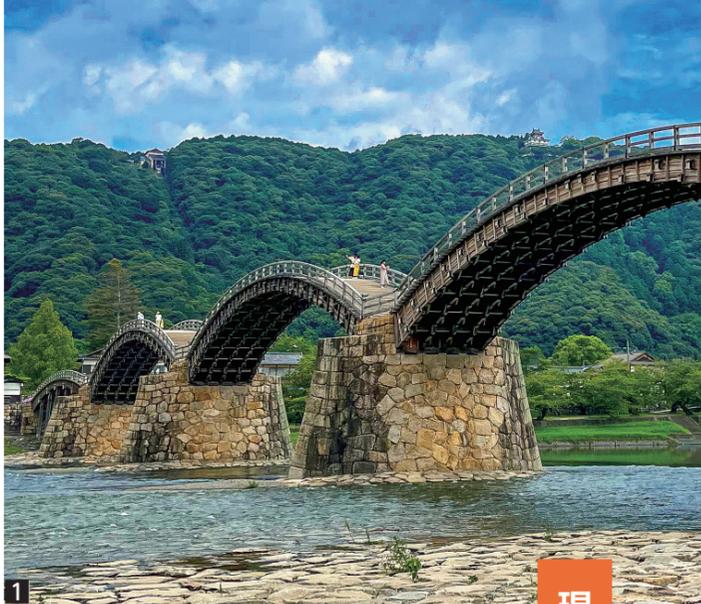


職人が道具に求めることは、いかに自分の思いのままに機能してくれるかどうかです。三木金物の評価は非常に高く、錦帯橋「平成の架け替え」の際には、私も道具を作ってもらいに三木市を4回ほど訪れました。

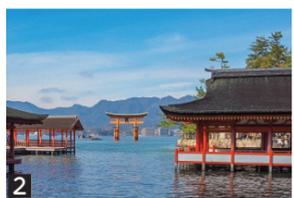
海外で日本の建築技術を伝える講習会を開くと、熱心な参加者が集まり、建築技術と並んで道具にも強い関心が寄せられています。外国人が普段使う道具は腕力に頼った設計のものも多く、三木金物をはじめとする日

良い道具は身体の一部になる

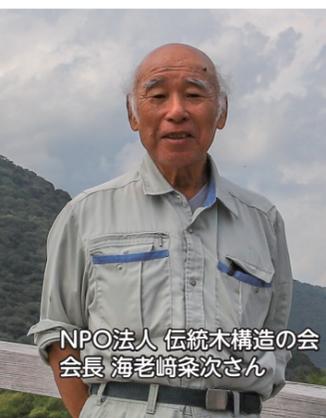


現代の名工に聞く、三木金物の魅力

本の道具に触れた参加者はその使い心地の良さに引き込まれていました。フランスやドイツなどでは、住宅建築をはじめとする一般的な建築現場で、今もなお伝統的な技術や道具が求められています。一方、日本では作業効率化の観点から機械設備の導入が拡がり、手工具（人力で作業する工具）をあまり使ったことのない職人が増えてきています。伝統技術が紡ぐ「日本の美を絶やさないうためにも、最上の仕上げをめざすには手工具が必要であることを、道具を作る側、使う側双方からもっと広めていく必要があると思います。」



1 錦帯橋(山口県岩国市)
2 厳島神社(広島県廿日市市) 錦帯橋の平成の架け替え工事の棟梁や厳島神社の修復工事を務めた海老崎さん。製材から組立までのほとんどの工程で三木金物を使用しています。



NPO法人 伝統木構造の会
会長 海老崎桑次さん

- 特集 -

こんなところにも
三木金物

～ 時代を、地域を越えて ～

皆さんが最後に三木金物に触れたのはいつですか？「毎日」という人、「小学校の授業で肥後守ひごのかみを使ったのが最後」という人もいるかもしれません。

では、三木金物を使って造られたものを含めるとどうでしょう？

調べてみると、日本を代表するあんなところやこんなところで三木金物が活躍していることが分かります。

今月の特集では、作り手、使い手、伝え手、それぞれが抱く思いを元に、日本の美を紡ぐ三木金物の現状と魅力に迫ります。

問 (市)商工振興課 かなもの振興係

国名勝指定100周年を迎えた、日本三名橋にも数えられる錦帯橋(山口県岩国市)は全長193m、幅5mを誇ります。

三木金物には、心地がある



宮大工として、神社仏閣、一般建築、播州祭り屋台の設計・製作を行っており、現場ではいつも三木金物の道具を使っています。道具の良し悪しは、鋸のこぎりであれば切れ味で判断されることが一般的ですが、より精緻さが求められる現場では、三木金物のように、手に伝わる感覚から木の繊維を感じ取れる、心地ある道具が必要とされます。

時代の変化で建築工法が変わったことにより、手工具を使う職人や鍛冶職人は年々減っています。このまま減少が続く、道具が造られなく



3 松原八幡神社の秋祭り(灘のけんか祭り・姫路市)の様子。福田さんは松原八幡神社や各地域の屋台の修復などを手掛けています。4 手に伝わる心地があるからできる細やかな造形。



表紙に登場！！
(一社) 日本歴史的建造物
保存修復技術支援機構
代表理事 福田喜次さん